

緒明山

OAKIYAMA-TSUSHIN

通信 4



旧緒明山配水池（斉藤和雄氏撮影）

発行日
令和 2 年（2020 年）7 月 1 日

発行者
横須賀市立中央図書館郷土資料室
住所 神奈川県横須賀市上町 1-61
電話 046-822-2077

本誌は印刷発行していません。郷土資料室の
ホームページからダウンロードしてください。
☞ <https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/8150/shishi/shishi1-top.html>

ご報告

『新横須賀市史』の編さん事業を終えた後、平成 29 年度/2017 年度から市史編さん事業を所管していた総務部総務課内に修史事業を継続するための「市史資料室」の設置を決め、横須賀市立中央図書館内に開設しました。その後、山積した各種資料の整理を進めていく中で、市史資料室の在り方を検討してきましたが、資料の適切な保存と公開・活用を円滑に推進していくためには、図書館及び博物館との連携強化を一層進めることが有効であるとの結論に至りました。

そのため、令和 2 年度/2020 年度から市史資料室を中央図書館に移管し、名称も「郷土資料室」に改めました。市史編さん事業期間中に収集した資料の整理も継続しつつ、資料の公開・活用に向けてさらに取り組んでいく所存です。

また、中央図書館移管にあわせて本誌も『緒明山通信』に改称しました。

緒明山とは中央図書館が所在する丘陵一帯の通称で、かつて緒明菊三郎が植林事業用に所有していたことに由来します。緒明は、弘化 2 年/1845 年伊豆戸田村（現沼津市戸田）の出身で、明治に入り上京して造船業を成功させました。浦賀船渠株式会社の発起人の一人で、創業時には相談役を務め大株主の最上位にありました（『浦賀船渠六十年史』より）。

この緒明山に、昭和 10 年の県営水道の通水に伴い緒明山配水池が建設されます（完成は昭和 11 年/1936 年 8 月）。用地買収にあたり土地や土地売渡代金の一部が緒明家から寄付され、工事の進行に大きな効果をもたらしました（『横須賀市水道史』より）。

中央図書館は緒明山の頂上にあり、その前面に広がる緒明山公園、別称読書公園は、この配水池の跡地（昭和 45 年/1970 年廃止）を利用したものです。

《 資料紹介 》

空母信濃の空撮写真について

郷土資料室 佐藤明生

昨年度、市内在住の故関口勇氏が所蔵されていた「空母信濃の空撮写真」をご子息の文信氏から寄贈していただきましたので紹介します。

空母信濃を捉えた写真は少なく、従来、公試中の船体を横から撮影したものと米軍機による空撮写真の 2 枚が知られるのみであった。

そのため、この関口勇氏所蔵写真については、平成 12 年/2000 年 8 月 16 日の読売新聞紙上で空母信濃の 3 枚目の写真として報道された経緯がある。また、令和元年/2019 年 8 月、NHK の BS スペシャル「幻の巨大空母“信濃”～その数奇な運命と乗組員たち～」においてもこの写真が取り上げられ、おぼろげながら確認できる艦船が本当に信濃かどうか、その真偽を検証する場面が放映された。

写真そのものは、広く横須賀海軍工廠全体を撮影したものであるため、信濃に限らず細部が不鮮明であることは否めない。しかしながら当時の工廠の様子と信濃建造のために築造した横須賀海軍工廠第

六船渠において、信濃建造中であることを記録する写真としての意義がある。



空母信濃の空撮写真(→が第六船渠と信濃)

信濃（第 110 号艦）は、大和・武蔵型戦艦として昭和 15 年/1940 年 5 月 4 日に、完成したばかりの第六船渠で起工した（船底板製作は第 2 船台を使用）。その後、昭和 17 年/1942 年 6 月、ミッドウェイ海戦で主力空母 4 隻を失ったことから、戦艦から空母への計画変更となった。さらに主力空母を次々と失う中で、新たな空母の戦列への編入を急がされ、昭和 19 年/1944 年 10 月 8 日に進水した。信濃という代々戦艦に使われてきた旧国名をもって命名され、11 月 19 日に第六船渠内で竣工した。ただし、完成には至らなかったようで、東京・横浜方面への B29 による空襲が激しくなる中、横須賀での作業の継続が憂慮され、呉海軍工廠に回航して仕上げることになった。横須賀港を 11 月 28 日夕刻に出港した。ところが、翌 29 日の午前 3 時 20 分頃に米国潜水艦の魚雷攻撃を受け、あっけなく約 7 時間後に沈没した。不沈ともいわれた空母の沈没については注排水装置の誤操作があったとも伝えている（『横須賀海軍工廠外史』より）。

戦況悪化への打開策というか、空母建造にまい進

するしか手立てがなかったのだろうか。完成を急がされた上、空母としての功績は何もないまま、作業中の工員を含む乗組員の人命の多くを失うことになった。建造に関わった技術者や工員の努力を忘れたくはないが、多大な犠牲と損失しか生み出さなかった海軍の責任は、信濃もろとも海底に沈んだまま、“幻”となってしまった。

参考・引用文献

横須賀海軍工廠会 1991 『横須賀海軍工廠外史（改訂版）』

《 資料紹介 》

横須賀海軍共済組合病院銘入りの体温計について

郷土資料室 佐藤明生

平成 30 年度、市内在住の川尻克巳氏から寄贈していただいた資料のうち標題の体温計を紹介します。

「横須賀海軍共済組合病院」の銘の入った体温計は、戦時中、克巳氏の姉が退院後に父の知り合いであった院長（大須賀都美次海軍中将）から検温用にいただいたものという。ガラス製の水銀体温計で、大きさは、長さ 124 mm、幅 9.3 mm、厚さ 5.3 mm を測る。銘は目盛板の裏面にあり「図案化した“共”と“錨”のマークを組み合わせた病院章 横須賀海軍共済組合病院 A Tokyo C 9963」と記す。今となってはレトロ感の否めない水銀体温計であるが、戦前期の製品とは思えないほど保存状態は良い。



「横須賀海軍共済組合病院」銘入りの水銀体温計

水銀体温計は、テルモ株式会社の HP*¹によれば、大正 10 年/1921 年に生産を開始し、水銀の安全性の問題から昭和 60 年/1985 年に生産を中止した。その盛衰の歴史を振り返ると、我が国においては戦前・戦後、そして高度経済成長期における人の健康管理を支え、広く一般家庭に普及した製品として大きな存在であったことに気付く。ところが現在は、人の健康及び環境を保護することを目的に、水銀使用製品を含めた水銀全般の適正な管理と排出削減

が求められている中で、水銀体温計は回収されてしまう運命となった*2。

さて、銘にある横須賀海軍共済組合病院については、同病院の 100 年史で経緯・経過を紹介する。

横須賀海軍共済組合病院は、明治 39 年/1906 年 3 月 15 日に横須賀職工共済会医院仮医院として、豊島町中里に開設したことに始まる。日露戦争後、世界は大艦巨砲時代を迎え、横須賀海軍工廠では施設や設備の拡充等、増強著しい時期であった。職工の人数も増え*3、横須賀海軍病院だけでは診療や入院は間に合わなくなった。そこで、共済会会員（とその家族）の診療を担う病院の設置が求められた。

明治 41 年/1904 年には公郷町に建坪 286 坪 (945 m²)、67 病床の病棟を建設した。その後、関東大震災で被災し、新たな病棟を米が浜通りに求めることになった。大正 14 年/1925 年に二階建て鉄筋コンクリート造の本館と付属建物を含め建坪総数 1,534 坪 (5,062 m²) の新病棟を移転竣工し、昭和 4 年/1929 年に横須賀海軍共済組合病院に改称した。戦後は海軍共済組合が解体したため、一時期、財団法人共済協会に属したが、昭和 25 年に国家公務員共済組合連合会の傘下に入り、現在に至っている。

また、現横須賀南共済病院、衣笠病院、元横須賀北部共済病院（北部分院）などは米が浜通りを本院として、いずれも分院として開院した経緯がある。

註

* 1 https://www.terumo.co.jp/terumostory/1921_2001/cat5_2.html

* 2 「水銀に関する水俣条約」及び「水銀による環境の汚染の防止に関する法律」に基づき不要となった水銀使用製品の適正な処理が求められており、横須賀市でも水銀を使用した体温計や温度計、血圧計などの回収を促進している。ただし、水銀使用製品の使用に関する期限の設定はなく、また、本件のように歴史資料として保存（展示を含む）する場合は、規制の対象となる「水銀の貯蔵」に該当しない。⇒条約や法律については、環境省の HP、回収方法は、横須賀市ほか各自治体の HP 参照。

* 3 職工人数の推移（『横須賀海軍工廠外史』より）。
明治 33 年＝4,077 人、明治 37 年＝7,919 人、明治 38 年＝10,940 人、明治 39 年＝15,810 人、明治 40 年＝12,955 人、明治 41 年＝11,991 人。その後大正 10 年に 19,243 人まで増員するが、ワシントン軍縮条約により解雇が進み、昭和初期は 1 万人前後で推移する。昭和 10 年以降は増え続け、昭和 20 年には 87,500 人に達する。

参考・引用文献

横須賀海軍工廠会 1991 『横須賀海軍工廠外史（改訂版）』
横須賀共済病院 2006 『横須賀共済病院 100 年史』

市史資料室事業概要（平成 31／令和元年度）

1 受付・問い合わせ件数等

- 問い合わせ件数 83 件
- 資料利用・掲載許可件数 24 件
- 資料（写真・絵葉書等）貸出・閲覧件数 9 件

2 関連団体の研修会等参加実績

- 6 月 25 日、神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会（以下、略称「神史協」とする。）総会・講演会「神奈川県立公文書館の業務見直しと公文書管理について／野村武司」〔佐藤〕
- 7 月 4 日・5 日、公益財団法人文化財虫菌害研究所 第 41 回文化財の虫菌害・保存対策研修会〔藤川〕
- 8 月 26 日～30 日、独立行政法人国立公文書館アーカイブズ研修 I 〔内藤〕
- 10 月 23 日、神史協研究会「歴史資料取扱機関等における業務改善／倉方慶明」〔内藤〕
- 11 月 13 日、神史協第 1 回視察研修会「板橋区公文書館」〔佐藤〕
- 1 月 22 日、神史協第 2 回視察研修会「新宿区立漱石山房記念館」〔宮城〕
- 12 月 10 日、神史協第 2 回講演会「アーカイブズをめぐる諸問題／早川和宏」〔内藤〕

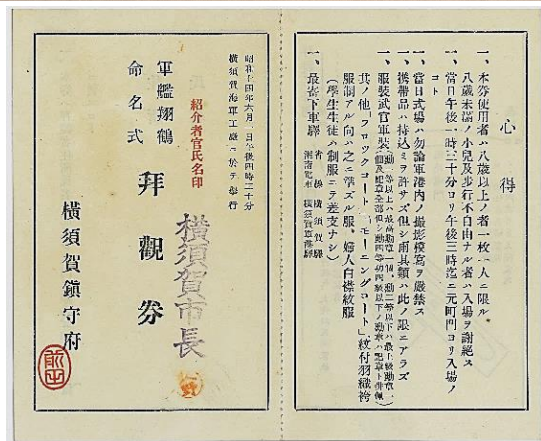
3 依頼業務・共催事業等

- 5 月 8 日～26 日、市史資料室所蔵資料ミニ展示『市民が所蔵していた歴代天皇関連資料』+中央図書館企画展示『平成の皇室を振り返る』（共催：中央図書館）



『市民が所蔵していた歴代天皇関連資料』展の様子

- 8 月 8 日～9 月 1 日、市史資料室ミニ展示『横須賀で建造された空母』+中央図書館企画展示『戦争及び平和に関する図書』（共催：中央図書館）
- 11 月 21 日、ささゆりの会講演、「2020 東京オリパラと日本遺産」〔佐藤〕



『横須賀で建造された空母』展の様子と展示品の一例

4 寄贈資料 (寄贈者、敬称略)

- (1) 横須賀商工会議所所蔵資料 251 件
市内・横須賀商工会議所
- (2) 鈴木かつ家文書 122 件
市内・個人匿名
- (3) 野地竹義家文書 8 件
市内・林美佐子
- (4) 雑賀要之助家文書 33 件
市内・個人匿名
- (5) 鈴木諫家文書 47 件
市内・個人匿名
- (6) 石渡一郎家文書 208 件
市内・個人匿名
- (7) 石井峰郎家文書 11 件
市内・個人匿名
- (8) 大福帳 1 点
市内・飯田法子
- (9) 海軍手帳 1 点
市内・個人匿名
- (10) 空母信濃の空撮写真 1 点
市内・関口丈信
- (11) 陸軍重砲兵学校関連写真 3 点
北海道・猪苗代肇
- (12) 都市計画街路網計画概要他 8 点
愛知県・小堀 聡

5 図書寄贈者・団体等一覧 (五十音順、敬称略)

◇秋田県公文書館 ◇厚木市教育委員会 ◇安城市教育委員会 ◇安祥文化のさと地域運営共同体
◇伊勢原市教育委員会 ◇浦賀歴史研究所
◇エプタ編集室(株式会社フィフス・ディメンション)
◇追浜地域運営協議会 ◇神奈川県立図書館
◇神奈川大学日本常民文化研究所 ◇鎌倉市中央図書館 ◇川越市立博物館 ◇齋藤純 ◇佐倉市市史編さん担当 ◇諏訪市教育委員会 ◇清文堂

出版株式会社 ◇世田谷区区史編さん担当
◇世田谷区立郷土資料館 ◇仙台市博物館
◇茅ヶ崎市市史編さん担当 ◇茅ヶ崎市文化資料館
◇豊田市教育委員会市史編さん室 ◇葉山町郷土史研究会
◇二戸市教育委員会市史編さん室
◇常陸大宮市教育委員会 ◇福岡市博物館市史編さん室
◇藤沢市文書館 ◇町田市立自由民権資料館
◇三浦一族研究会 ◇三浦半島の文化を考える会
◇村野克明 ◇横須賀開国史研究会
◇横須賀市学校保健会 ◇横浜開港資料館
◇横浜市史資料室

6 刊行物

市史資料室通信 第3号 令和元年5月7日

7 事務執行体制の変更

	平成31年度	令和2年度
総務部長	藤井孝生	—
総務課長	藤崎啓造	—
情報公開係長	青山智行	—
教育長	—	新倉 聡
教育総務部長	—	志村恭一 (～6/30)
		佐々木暢行 (7/1～)
中央図書館長	—	山口正樹
図書サービス係長	—	深水賢一
		(市史資料室／郷土資料室)
主任	内藤立成	谷合伸介
再任用職員	佐藤明生	佐藤明生
非常勤／会計年度任用職員	宮城 睦	宮城 睦
非常勤／会計年度任用職員	藤川杏奈	藤川杏奈
臨時／会計年度任用職員	藤田美由紀	藤田美由紀
臨時／会計年度任用職員	山口涼子	山口涼子

あとがき

緒明山通信第4号(市史資料室通信からの通号)をお届けします。今号では寄贈していただいた資料の中から2点を紹介するとともに昨年度の事業概要を報告しました。

市史資料室から郷土資料室へと名称を替えて、図書館に移管するこの切り替わりの時期に、新型コロナウイルス COVID-19 が世界に蔓延しました。図書館は閉館し(インターネット等を利用した予約貸し出しは対応)、職員も通常勤務に在宅勤務を取り入れて感染拡大防止に努めてきました。衰退の兆しが見えたとはいえ安心はできませんが、図書館は6月2日から開館し、一部のサービスを提供しています。

郷土資料室は未だに資料整理中のためオープンな利用ができる状況にありませんが、図書館ホームページでの資料の一部公開などを目指して、機能強化を図っていきます。

なお、本誌は印刷発行せず、ホームページからダウンロードしていただく方式により無償で頒布しています。この度の中央図書館への移管に伴いホームページのアドレスを変更しました。新しいアドレスは次のとおりです。

<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/8150/shishi/shishi1-top.html>